

三浦 義光 議員 政風会

市内の学校を含めた
スポーツ事業の支援を

問

- (1) 本市の小・中学生の体力について、これまでの推移、現状は把握しているか。
また、体力向上についての打開策は講じているか。
(2) 学校の健康診断を時代に応じて見直していく必要性について、尋ねる。

座高測定・寄生虫卵検査を省略してもよいのではとの考えが起きている。

運動不足にかかわる問題などの対応として、運動器などの検診が考えられる。
これらについて、本市の対応、現状は。

(3) つり天井について、総合社会教育センターのホールなど、多くの公共体育館、ホールがあるが、それらの対策及び小・中学校、公共施設のグラウンドについて、

点検は行っているのか。

- (4) 学校運動部活動について、どう支援しているか。
(5) 市内の社会教育団体、体育協会に属している団体は、公共施設での地域交流も盛んであるが、学校を交流の場としているところもある。

市の考えを尋ねる。

体力向上に取り組み、
部活動も支援していく

答 学校教育課長

(1) 小学生は鍛えることより、まず運動好きにすること、動ける体の基礎をつくること、遊びを通して体を動かすことの楽しさや喜びを味わわせるといふことで健康の増進と体力の向上に取り組んでいる。

中学生は、体育授業での

活動の充実、休憩時間にスポーツを親しむことで、さらなる体力の向上を目指し、取り組んでいる。

(2) 28年度児童・生徒の健康診断で座高測定は必須項目ではなくなる。

寄生虫卵検査も必須項目ではなくなるが、地域の判断によるといふことなので、市医師会長の意見も聞かせてもらうよう調整中である。

運動器に関する検診については、必須項目として加えられたが、現在、検査方法の細かい指針が示されていない状況である。

答 教育部長

(3) 公共施設等総合管理計画を今年度に策定し、計画的に整備を進めていきたい。グラウンドは、学校は随時、報告に基づき対応している。社会体育施設の各グラウンドは、定期的に利用者から不具合や修繕の情報を提供していただき、維持管理に努めている。

(4) 地域の教育力を生かした学校教育を推進するた

め、部活動などを指導していただける学校支援ボランティアを随時募集し、支援していきたい。

(5) 学校区単位を中心としたコミュニティ活動の育成、支援なども含めて、地域交流の場の総合的な環境整備を進めていきたい。

福寿会の現状と
市の支援方法は

問

- (1) 市福寿会について、正会員、準会員の規約の改正について、進捗を尋ねる。
(2) 昨年度より1団体減少した理由は。

(3) 会員間の親睦を図る上で重要視されている日帰り旅行が各会で催されているが、市のバスの利用状況は。
(4) 特別会計予算において、ふれあいサロン等運営事業委託料が計上されているが、福寿会への委託料は学区単位での計画か。

規約の見直し、補助事業
などにより支援していく

答 民生部長

(1) 会の存続の一助になると考えており、もう少し時間をかけて調整したい。

(2) 役員のなり手がなくことによる廃部と聞いている。

答 総務課長

(3) 使用制限としては、中型バス1台のみの運行で、単位福寿会当たり、年間2回以内となっている。

単位福寿会が日帰り旅行を行う場合において、2台目以降を有料でバスを借り上げられた場合、1台分の半額または5万円のいずれか低い額を補助している。

答 介護高齢課長

(4) ふれあいサロンは、福寿会でも計画されており、4月の役員会で説明し、現在、その検討をされている。市の考え方は、単位福寿会でも、自治会や民生委員とタイアップして取り組んでいただくのも一つの方法と考えている。

なお、委託料については、議員の考えのとおりである。